

## 2 (平塚地域) プレゼン発表

【平塚地域（城島地区）の課題（概要）】

【課題解決方法】

【プレゼン資料】 / 【説明者の発言】

## 2 (平塚地域) プレゼン発表

※詳細は末項「(別表) 個別事業一覧」参照願います。

【平塚地域（城島地区）の課題（概要）】

- 高齢化、少子化
- 耕作放棄地の増加

⇒何年後かには地域を維持できないのではないかと不安感があり、高齢者がいきいきと参加できる仕組みづくりが必要

【課題解決方法】

⇒地域の強みを活かして関係人口・交流人口を増やし、地域づくりを行う。



令和3年度 地域の支え合い仕組みづくり事業  
中間報告会（令和3年10月29日）

高齢者活躍の仕組みづくり支援分野

# 地域資源活用による交流 型体験の里づくり事業

城島活力創造推進協議会

1

## 【説明者の発言】

平塚市さんとそれから地元の城島（きじま）地区の皆さん、それから、湘南NPOサポートセンターの三つの協議体で事業を進めております。湘南NPOサポートセンターから説明いたします。よろしくお願いいたします。

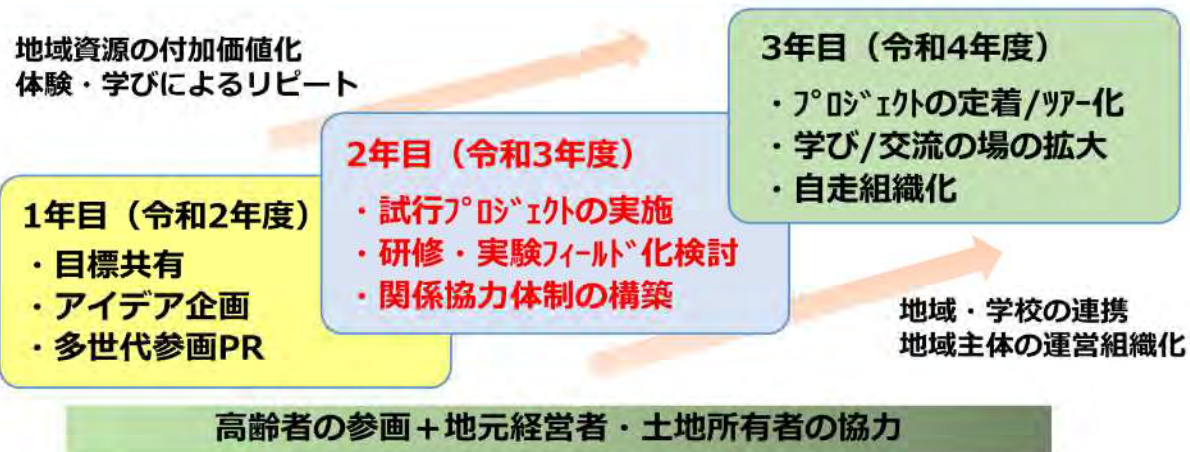
私どもの事業については、地域資源活用による交流型体験の里づくり事業ということでございます。

## 第1 概要

### (1) 目的

・地域活動団体、地元の大学・高校や民間企業と連携し、**地域資源を活用した交流・体験活動と高齢者がいきいき参画できる仕組みづくりを通し、地域運営の持続性**を向上していく

### (2) 事業全体内容



2

#### 【説明者の発言】

目的はそこにございますように、交流体験活動を通じて高齢者が生き生きと参画できる仕組みと、究極は、多世代参加の地域運営の持続性、こういったものを目指しているということです。

事業の全体の3年間の構成ですが、1年目はそういった地域資源の付加価値化や学びについて、目標とかアイデアを言ったものをみんなで考えました。

今年は2年目ということでございまして、その中から、交流体験の試行プロジェクトを幾つか実施し、それから展開していく体制も考えていきます。

来年度は、そのプロジェクトを定着しツアー化というような形で、地域の運営を考えます。交流の場としての拡大を、自走化も含めて考えていくということを目指しております。

## 第1 概要

### (3) 令和3年度ゴールイメージ

#### ●目標と成果

- ・交流型体験プログラムの試行と**自走化に向けた運営体制づくり**
- ・地元高齢世代と子育て世代、若年世代（大学生や高校生等）との**世代連携・協働**を基本に**持続性ある事業運営計画の策定**



#### ●活動内容

- ・休耕田畑・施設や自然環境・資源を活用した**試行プロジェクト**  
**（農業体験、料理教室、地域巡り・散策等）企画準備と活動のPRの実施**
- ・試行プロジェクトの**年間ツアー化企画、事業収入増の仕組み検討**
- ・大学、高校ならびに民間企業が継続的に事業運営に参画していける  
**演習・研修・試作開発フィールドとしての連携の具体化の可能性協議**
- ・先進事例における**事業制度、支援措置、資金調達等の地元適用性検討**

#### 【説明者の発言】

今年度、令和3年度のゴールイメージになります。

若干繰り返しのところはございますけれども、試行プロジェクトを通じて、「自走化していく上には、運営上の課題、体制づくりの留意点がどこにあるのか」こういったことを考えながら整えていこうと思っています。その時には、特に、地域側の多世代の連携、それから横展開として次世代の方々である大学生とか高校生といった人たちとの協働を基本にして、事業運営計画を立てていくということを目指しております。

具体的には、その下の「活動内容」にございますように、コロナ禍での厳しい状況でございますが企画準備をし、試行プロジェクトとして、農業体験、料理教室、地域めぐり等々を企画準備しています。その中で、単発ではなくて、年間のツアー化や事業収入の増加、こういったものも考えています。

それから、“学び”ということで、特に大学とか高校の中でのフィールドとして、ここ城島を捉えていっていただきたいようなことも考えております。

それから、事業として費用対効果も含めた、いろいろな支援措置とか資金調達等、こういったものが可能性があるかというのを探っていこうということです。



## 第2 進捗状況

### (1) スケジュール



#### 【説明者の発言】

今年については、4月にキックオフのマルシェを開催をしました。後程ご説明します。

また、大きな柱としては、「野菜農業体験の教室」。

それから、平塚市のメインのプロジェクトの一つである「葉酸を活用した料理教室」があります。

そして「きじまるシェ」、「地域巡り」この4本立てで進めていきます。

これをPRするという事でホームページ、Instagram等々を開発をさせていただきます。

## 第2 進捗状況

### (2) 実績・成果

#### ① きじマルシェ

4/24 (土) 田植え前のいなが田

- ・特産野菜販売
- ・事業紹介パネル/米づくりマシン展示
- ・ふれあいコーナー

\*参加者 約200名

城島23%、市内74%、市外3%

\*スタッフ(含む学生) 約60名



5

#### 【説明者の発言】

その中で(令和3年)4月24日には、田植え前の蓮華の田んぼでマルシェを開催してこの事業の紹介等を行いました。

参加者が200名ということで地元の方以外にも、市外までにはなかなかPRが行き届かなかったということがございますが、市内は比較的参加者が多かったです。

スタッフとしては、大学生、高校生含めて60名ということで、そこに写真があるような形で、大山の麓で広々としたところで実施をいたしました。

## 第2 進捗状況

### (2) 実績・成果

#### ②米/野菜づくり体験教室

5/15 (土) ~11/20 (土) 6回

・田植え/稲刈り

・野菜植付/収穫

\*参加者 21家族

\*スタッフ (含む学生) 延約120名

\*参加費 1万円/家族

収穫新米・野菜の持帰り



●田植え/稲刈り  
(5/15、6/12、10/3)



●野菜植付/収穫

(5/15、6/12、7/4、10/3)



#### 【説明者の発言】

農業体験の方は、5月から11月の全6回のところ、現在5回実施しております。

これは田植えや稲刈り、それから地元の野菜の植え付け～収穫までということで、21家族、全体では70名ぐらいの方々の参加いただいております。1回ごとに大体20名ぐらいのスタッフで、学生さんにも協力いただいております。参加費は1家族1万円ということで進めております。

スライドの右側の方に、田植えの様子ですとか、サツマイモの植え付けの様子とか、こういったことを示してございます。



## 第2 進捗状況

### (2) 実績・成果

#### ③自然・歴史探索企画準備

- ・自然農法みそづくり準備  
7/18 (日) 参加者 18名
- ・弁天池再生(生き物観察)準備  
8/8 (日) 参加者 15名
- ・ダイヤモンド富士/星空観察準備  
9/23 (木) 参加者 10名
- ・城島新川秋景色散策準備  
10/10 (日) 参加者 23名



#### ④情報発信

- ・HP「城島へようこそ！」開設
- ・インスタグラム「KIJIMARCHE」開設
- ・地元メディア放映/掲載  
→きじマルシェ、弁天池再生準備等
- ・事業活動報告(公民館だより)  
→月1回 現在9回

#### ⑤自主運営・自走化準備

- ・東海大卒論テーマ・フィールドとの連携
- ・平塚農商高「生徒商業研究」との連携
- ・地元関連組織、移住者/組織との連携  
→湘南ライセンター、介護支援団体  
→草木循環Labo(各種体験企画)

7

#### 【説明者の発言】

それだけでとよくある農業体験のイベントということになりますが、我々の中では交流体験で“学び”ということ、特にこの地域の自然と歴史を「学びの素材」ということで、子供たち、それから高齢者の方にも再発見というような形で進めていく事業を検討しています。

4つほど既に実施をしております。自然農法の味噌作りの準備ということで、これは畑を開いていくというところですが、7月18日実施しました。

スライド右側の方に少し大きい池がある写真がありますがこれは弁天池ということで、もう数十年、あまり手がつけられていなかった遊水池の再生をしました。

それから、ダイヤモンド富士が非常に綺麗なところということで、星空観察とセットで、そういったものをやろうかと考えています。

それから、新川の秋景色散策です。これは農業用水路なんですが、上流は湧水です。地域の生態系ということ幅広く学んでいくということで、そのためにはどういうアイデア、どういうポイントを子供たちに伝えたらいいか、そういったことのための実験を行いました。

情報発信は、「城島へようこそ」(※<https://hiratsuka-kijima.jimdofree.com/>)というホームページ、「きじマルシェ」というInstagram(アカウント「kijimarche」)、地元のケーブルテレビでは、こういった企画準備の様子を放送していただいています。やはり地域の方々に知っていただくということでは、公民館だよりによるこの事業報告を毎月へ行っています。

それから、自走化ということでは、東海大学の健康学部、工学部の学生さんの卒論フィールドとして使っていただいています。それから、平塚農商高校さんには、生徒の商業研究で、城島を素材にしていただいているのでの発表をし最優秀賞をいただいたということを聞いています(※神奈川県生徒商業研究発表会。神奈川県高等学校教科研究会商業部会が主催)。

また、地元の組織と、昨今は転入者が少しずつ増えてますので、そういった方々との連携を図りつつあるということです。



## 第2 進捗状況

### (3) 振り返り・課題

#### ① 多世代参画に向けた情報発信の工夫

- ・コロナ禍長期化の下、メール活用の情報共有、HP/Instagramによる事業周知に努めたが、ICT環境・利用の差異等による迅速な企画協議、実践調整が立ち遅れ
- 利用しやすいSNS活用、ハイブリッド（対面・オンラインを組合せ）運用
- 地元メディア（湘南CATV、湘南タウンニュース等）活用による幅広いPR

#### ② 学び・体験教育等関係機関との連携

- ・イベント・飲食自粛、三密対策等の長期化により、参加者募集型での試行体験プロジェクトの実践準備、運営関係者の連携構築が立ち遅れ
- 既存活動との共催、地域教育関係者との連携等の市内外のパイプづくり
- 体験ツアー化を見据えた豆知識、テキスト等、“学び”の付加価値づくり

#### ③ 自主運営・自走化への準備

- ・地元主体の事業運営、事業収入検討を推進する関係機関、担い手参画が立ち遅れ
- 事業共感者（地縁者、転入者）の拡大と体制づくり

#### 【説明者の発言】

そういった中でいくつかの課題ということでは、やはり高齢者の方々が中心ですので、色々な情報の共有がなかなかコロナ禍で難しくなってるということです。

SNSの活用とか、それから対面、オンラインあわせてハイブリッドできめ細かくやっているということ。それから地元のメディアをなるべく使って、知っていただくということをやっています。

今後については、“学び”の付加価値化。ただ体験するだけではなくて、色々な豆知識等を「こういうことなんだ」というテキストみたいなものを作っていく必要があるのかなというのを考えてます。

それから、自走化に向けて、地縁の地元の方と新しく城島地区に来られた方との、調和というような「連携」が一つ大きな課題であろうと思っております。

## 第3 今後の取組み

### (1) 計画

#### ●参加型試行プロジェクトの実施

- ・収穫祭：11/20（土）
- ・特産野菜、季節の素材を使った健康薬膳教室：来年1～2月予定
- ・既存活動/行事等に合わせた「きじマルシェ」の開催：12月以降

#### ●試行プロジェクトのツアー化、継続的『学び』の場への企画

- ・4グループ合同の次年度事業化企画会議の実施：11月以降
- ・幅広い事業共感者が参画できるオンライン会議とリアル実践の組み合わせ

### (2) 課題

#### ●自主運営化に向けた拠点・体制準備

- ・自主運営に向けた情報共有・発信、協議・問合わせ等の拠点施設と人材の確保
- ・民間企業や教育機関等、分野横断的活動を実践しうる組織化（例えば将来的なNPO法人化）を見据えた検討開始

#### ●事業収支向上のための付加価値向上のアイデア検討

- ・各種試行プログラムの体験ツアーの通年化・滞在型化や葉酸含む農産物加工・レシピの商品化等、付加価値向上の企画検討開始

#### 【説明者の発言】

今後については、11月20日に収穫祭を行います。

また、ようやく緊急事態宣言が解除されましたので、健康薬膳料理教室を来年に開催したいと思っております。

それから、試行プロジェクトのツアー化、継続的な学びの場ということで、今は少人数でリアルで会議を中心に4つのワーキンググループで進めているんですが、これを全体会議として進めたいと思っております。

課題といたしましては、自走化に向けては、拠点、場所、体制を整えていきます。特に、教育機関において“学び”ということがございますので、そういった受け皿を考えると今のような地域の自主組織では難しく、NPO法人化というものも考えていく必要があるのかなと思っています。

それともう1点、「付加価値化の向上」ということで、先ほどから繰り返していますが、ツアー化ですとか、それから、新しいレシピみたいなものをみんなで考えていくと、こういったことも少しずつ進めていくところかなと思っています。

## おわりに

共創社会における身近に農・学びがある暮らし・地域づくり



高齢者はじめ多世代が交流する持続性ある地域運営  
「城島スタイル」の発信



かながわガーデンエリア・モデルに向けて



### 【説明者の発言】

これは我々の思いということですがけれども、身近に「農」や「学び」がある暮らしという中で「持続性ある地域」、この運営を「城島スタイル」というふうに我々呼んでいまして、これを神奈川県中央部西部のガーデンエリア・モデルというようなことで発信、それから、展開できるきっかけになったらいいなというふうに考えております。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。



## 3 (平塚地域) プレゼン後の 質疑応答

- (1) きじマルシェについて
- (2) 組織化について
- (3) まちづくり活動の質について
- (4) 地域運営について
- (5) 自走化について

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (1) きじマルシェについて

Q1-1

「高齢者の活躍の場」という提案事業であるが、4月に行われた「きじマルシェ」では、高齢者の参加人数はどれくらいか？

A1-1

- ・スタッフ約60名中約40名が高齢者である。
- ・70代の方々に多く参加いただいた。
- ・他約20名は、地域の学生（東海大学や平塚農商高校の生徒さんら）。

Q1-2

高齢者参加の促し方はどのようにしたか？

A1-2

- ・公民館だよりにて、全戸配布の紙ベース。
- ・代表者会議を高頻度で実施。マルシェまでは月2回ペース。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (2) 組織化について

Q2

将来的に、NPO法人化も含めての組織化の計画とあったが、具体的な方針はあるか？

A2

- ・未だ見えないところがある。
- ・ただ、今年1年試行プロジェクトを行い、来年1年間でツアー化という目途が立てば、その時には再来年度に向けてはもう準備しなくてはいけないと思っている。
- ・NPO法人になるかどうかの方針とは別に、自走できる事務局や専門のスタッフを入れた形にしていきたいと考えている。

○アドバイス

- ・組織化するにあたり、「NPO法人化に限らず」というところはその通りだと思う。
- ・収支状況等も考えた活動をしていくため、組織化をしようというその目安を早めに立てておくとよい。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (3) まちづくり活動の質について

Q3

これまでのまちづくり活動というのは「参加者数」「通行量」といった比較的大きな数で評価していた。コロナ禍となり、「量」より「質」の方の説明を丁寧にしていく必要がある。「質」を測るようなアプローチはしたか？

A3 (1/2)

(準備段階)

- ・「きじまるシェ」の集客対象をどうするか、かなり議論した。
- ・親子で参加できる企画を実施することで、「交流体験」「多世代連携」ということを実施するため工夫した。

(広報)

- ・(スライド10に記載の)「きっちゃん」、「じっくん」、「まっちゃん」とい  
う馴染みやすいキャラクターで、情報発信している。

⇒次ページへ続く

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (3) まちづくり活動の質について

Q3

これまでのまちづくり活動というのは「参加者数」「通行量」といった比較的大きな数で評価していた。コロナ禍となり、「量」より「質」の方の説明を丁寧にしていく必要がある。「質」を測るようなアプローチはしたか？

A3 (2/2)

(実施内容)

- ・「きじまるシェ」では、GPS搭載トラクターや、1台数千万円もする田植え機を展示し、来場者に「農」の興味を持っていただいた。
- ・世代を超えた多くの人たちに来ていただきたいが、まずは平塚市内から来ていただけるというところからスタートしたい。

○アドバイス

- ・パンデミックで劇的に変化し、これまでイベント成果報告だと判断が難しい。
- ・苦戦したこと、工夫したことをまとめておくことが、これからすごく大切になると思う。
- ・参加者が何人だったというだけではなく、苦労されたことをもう少し記載いただけるとすごくいいと思う。裏側が見えても構わない。
- ・そのようなことが大切になる時代と思うのでその辺り記録していただきたい。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (4) 地域運営について

Q4-1

スライド2「(1) 目的」にある「地域運営」とは、具体的に何か？

A4-1

(現状)

- ・地域の困りごとや課題(※)について、地域住民の方々が中心になって取り組んでいる。  
※ゴミの問題や、空き家・空き地についての安全も含めて、どうしていくか等

(地元の認識)

- ・地元の方々は「城島地区は高齢化が進み、耕作放棄地も増加し、子供の遊ぶ場もない、子育ての環境もない」と、何年後には自分たちの力で地域の安全安心活力を維持できないのではないかという不安感を持っている。

(地域づくりの方針)

- ・単に人口を増やせばよいのではなく、次の世代に城島という地域の良さを伝えて、その中で「安全、安心、元気」をみんなと一緒に取り組んでいく。
- ・今回の事業としては高齢者参画であるが、地域側からするともう少し幅を広くとらえていきたいと思っている。



### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (4) 地域運営について

Q4-2

(A4-1を受けて) 自治、互助という「お互い支え合って自分たちのことは自分たちでやっていこう」「困ってる人がいれば助けよう」というようなことをやっていきたいという目的があって、そのために手段として「農」という資源を生かしたイベントを行っていくとのことだが、イベントを通じて互助の意識が高まる、また、この地区には住んでいない方がこの地区に住んでる人の生活支援をするようなイメージか？

A4-2

- ・農地を維持していくのはもう負担だと思われる方もおり、「どうやって守る」か、だけではなく「どのように生かしていく」か、を考えなくてはいけない。
- ・「一緒に学び伝えていく」ということで、交流人口を増やししながら、関係人口を増やししながら進めていきたい。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (5) 自走化について

Q5-1

自走化のための資金獲得は、どの分野(※)からどんなものを考えているか？「持続性のある地域運営のために資金を獲得する」であると、なかなか難しいものだと感じる。

- ※ 例1：介護保険関係
- 例2：農業関係の補助金等

A5-1

(資金源)

- ・体験ツアーの参加費を資金源とする。
- ・料理教室やレシピ開発を行い、商品化して販売の収入を得る。

(考え方)

- ・農地はあくまでも場所である。
- ・基本的には“学び”ということをターゲットにしている。
- ・農業や自然という場を利用し、子供たちの体験学習が滞在型で年間ツアーとしてやっていく(交流人口の増加)。
- ・地元の大学生や高校生がサポート役にもなる(多世代間の交流)。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (5) 自走化について

Q5-2

(A5-1を受けて) ツアーはおそらく参加費とで、トントンにしようと考えていると思われる。

農産物の加工は事業化には相当な規模になるが、どのように考えているか？

A5-2

- ・ 民間さんと手を組むのは、いろいろあるかと思うが事業を行うというのは早い話かもしれない
- ・ しかし、まずは地元で成功体験を作り、足元を固めていきたい。
- ・ 平塚農商高校さんは、実験的に色々なことを地域と一緒に取り組んでいる。若い世代が、ここ城島をうまく取り込んでもらえるようなことで考えたい。

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (5) 自走化について

Q5-3

(A5-2を受けて) 事業費をかけずにコストを抑え少ない収入でやるイメージか？

A5-3

- ・ 商品開発はリスクを抱えながらやるということになると思われる。農家の方々が「全然駄目だったよね」「結局こんなことやって」というようなことにならないよう、まずは地元で成功体験を作りたい。

○アドバイス

- ・ 本取組みはかなり注目されてると思う。というのは、どこでも考えられることで、どのように自走化していくのか、どこからお金を得て、どのように継続していくのかというところは、大変注目される場所である。
- ・ ぜひ今後、さらに精緻化していただいで、皆さんにこれでいけると自信を持って言えるような形にしていきたい。